



一度は行きたい戦国地  
大本命！



感動の名城&史跡  
最有力！



岐阜のイチ押しスポット  
堂々選出！



# 岐阜戦国 ROADSHOW

映画のような旅がある。

この国の  
歴史に残る、  
名場面へ。





# あなたの旅を、 名作に。

かつて戦国の中心地だった岐阜。

そこで冒険をするように、さまざまな史跡を巡ってみたり、

探偵になったつもりで、資料館などを訪れ史実を探求したり、

好きな人と絶景を眺めながら、ロマンスなひとときに浸ってみる。

そんな旅先のできごとは、まるで映画のワンシーンのよう——。

近頃では、戦国時代が垣間見える史跡や催事が多くの旅人に注目されているとか。

今度の休日、映画の世界へ足を踏み入れるかのように各地に点在する名所や名店を訪ねてみてください。

心踊る出会いや体験を重ねていくうちに、きっと名作といえる旅になっていくことでしょう。



## 03 | ぎふ戦国ジャーニー

かつて、岐阜は動乱の国であった。  
その証が、ページの先にある。

## 05 | 武将名地

日本を代表する武将の人物像と  
ゆかりの地に迫ってみよう。

## 07 | 関ヶ原1600

天下分け目の決戦地、関ヶ原。  
その見どころを紐解いていく。

## 09 | 城物語

岐阜の中でも特に注目したい。  
そんな城や城跡を紹介する。

## 11 | 歴史探訪inぎふ

歴史ロマンあふれる史跡へ。  
5つのコースを用意した。

## 13 | ぎふ城郭マップ

名城やゆかりの地を巡りながら、  
戦国時代の軌跡をたどろう。





激動の戦国ドラマを旅しよう。

# ぎふ 戦国ジャーニー

あらゆる思惑が渦まき、多くの野望が生まれては散っていった時代に、若き男が天下統一を志し、そして天下分け目の決戦が行われた地「岐阜」。  
そんな岐阜を舞台に繰り広げられた数々のドラマをご覧ください。

[1560年頃の勢力図]



1552 (天文21年)

織田信長19歳。  
父の織田信秀が病死し、  
家督を継ぐ。

1560 (永禄3年)

桶狭間の戦い

1567 (永禄10年)

## 稲葉山城の戦い

織田信長が齋藤龍興に  
勝利。井ノ口を岐阜に改名。  
岐阜を拠点に天下布武を  
押し進める。

### 一時休戦タイム

信長は稲葉山城の四方に鹿垣(ししがき)を築いて稲葉山城を完全に包囲。齋藤龍興を孤立させることに成功しました。

1575 (天正3年)

長篠・設楽原の戦い

1584 (天正12年)

小牧・長久手の戦い

### 一時休戦タイム

小牧・長久手の戦いにて、徳川家康軍と対峙した美濃金山城城主の森長可は、一進一退の攻防を続けましたが、鉄砲隊に狙撃され討ち死にしました。これにより豊臣軍は壊滅状態に陥り、局地戦では徳川軍が勝利しました。

1600 (慶長5年)



## 関ヶ原の戦い

徳川家康率いる東軍と、  
石田三成率いる西軍が激突。  
日本を二分し、戦国時代の  
終わりを告げた天下分け目の  
合戦である。

1551 (天文20年)

齋藤道三が土岐氏を  
追放し、美濃の実質的な  
支配者となる。

1551 (天文20年)

### 一時休戦タイム

#### [大桑城跡]

美濃守護の座にのし上がった土岐頼芸が一時拠点としていた城。齋藤道三が土岐頼芸を追放した後、稲葉山城を長男の義龍に譲り、自らの隠居所としました。山頂に城址碑があり、土塁や堀が残っています。

1556 (弘治2年)

長良川の戦い

齋藤道三が息子の義龍に殺害される。  
織田信長が救援に駆けつけたが、  
間に合わなかった。

1556 (弘治2年)

### 一時休戦タイム

義龍が長良川南岸に動いたのに  
応じ、道三軍は鶴山を下りて長  
良川北岸に移動し、ここで両者  
は激突しました。

1564 (永禄7年)

竹中半兵衛による  
稲葉山城乗っ取り事件。

1564 (永禄7年)

### 一時休戦タイム

#### [両兵衛の固い絆]

共に秀吉の軍師として活躍した竹中半兵衛と黒田官兵衛には固い絆がありました。その証拠に、あるとき信長から官兵衛の子の松寿丸の処刑を命じられた半兵衛は、命令に背いて密かに松寿丸を匿ったという逸話が残っています。

1572-75 (元亀3年-天正3年)

岩村城・明知城の攻防

1572-75 (元亀3年-天正3年)

1582 (天正10年)

本能寺の変

1582 (天正10年)

### 一時休戦タイム

#### [可児才蔵]

関ヶ原の戦いで東軍福島正則軍の先鋒として活躍した可児才蔵は、明智光秀に重用されたと言われ、本能寺の変にも従軍したとされています。一説では、光秀と同郷の出身だったとか。

1588 (天正16年)

高山城の城下町の  
整備がはじめられる。

1588 (天正16年)

### 一時休戦タイム

#### [飛騨高山城跡]

1586年、三木氏に代わって飛騨の国主となった金森長近は、高山城の建設および城下町の整備を始めました。観光名所「古い町並み」は、かつての商人町。酒ばやしや出格子が連なる懐かしい景色が残っています。

岐阜ゆかりの武将

齋藤道三  
Saito Dosan

織田信長  
Oda Nobunaga

明智光秀  
Akechi Mitsuhide

古田織部  
Furuta Oribe

金森長近  
Kanamori Nagachika

竹中半兵衛  
Takenaka Hanbee

森蘭丸・森可成  
Mori Ranmaru Mori Yoshinari

年表中の出来事にゆかりのある武将の家紋をつけています。

関ヶ原七武将

徳川家康  
Tokugawa Ieyasu

黒田長政  
Kuroda Nagamasa

福島正則  
Fukushima Masanori

石田三成  
Ishida Mitsunari

大谷吉継  
Otani Yoshitsugu

島津義弘  
Shimadzu Yoshihiro

小早川秀秋  
Kobayakawa Hideaki

年表中の出来事にゆかりのある武将の家紋をつけています。



# 武将名地

名将たちの知られざる姿を覗いてみよう。

…

群雄割拠の世の中で、しのぎを削りあった名将たちはどんな人だったのか。

本当に非情だったのか、それとも慈悲深かったのか。

時代の主人公たちの生き様を紐解きながら、知られざる一面に迫ります。

## 織田信長

Oda Nobunaga | 1534-1582

幼少期から奇想天外な行動のせいで「うつけ者」と呼ばれていたが、桶狭間の戦いを機に数々の戦いで勝利を収めて、一躍戦国時代を代表する武将になった。岐阜を拠点に天下統一を目指して上洛すると、敵対する大名らによる信長包囲網に苦しめられたが、比叡山延暦寺の焼き討ちなどの苛烈な手段で危機を脱した。近代的な合理主義の持ち主であり、長篠・設楽原の戦いで鉄砲隊を活用したほか、楽市楽座・兵農分離など画期的な経済施策を実行した。しかし残虐な性格が祟ったのか、1582年、明智光秀の謀反をうけて自害した。

### 信長は、うつけ者か。

斎藤道三と織田信長が初めて会うときのこと。道三が前もって織田家の一行を盗み見たところ、信長は袴を履かず、荒縄を腰に巻き、茶筌鬘を結っただけの荒唐無稽な姿だった。しかしいざ聖徳寺で対面すると、信長は打って変わって見事な格好で現れ、彼の家来までもが「たわけ振りは、偽りの姿だったか」と仰天した。信長のしたたかさに驚いた道三は「自分の子どもは、信長の門外に馬を繋ぐ(家臣となる)ことだろう」と漏らしたという。



長興寺(豊田市)所蔵  
写真協力:豊田市郷土資料館

### 崇福寺



織田家の菩提寺であり、「織田信長父子廟」や鎖かたびら、鍔ひたれの血痕が付着した「血天井」を見学できる。

## 斎藤道三

Saito Dosan | 1494-1556

残忍冷酷・梟雄で知られ、「美濃の蝮」の異名で恐れられた斎藤道三。一介の僧侶だった父長井新左衛門尉が油商人を経て武士の道へ入り、その子道三が戦国大名へ成り上がったことから、下剋上の代名詞とされる。土岐氏の家督争いに乗じて主君を殺害・追放して勢力を伸ばし、美濃国を支配した後は、織田家や朝倉家と一進一退の攻防を続けた。後に信長に娘の歸蝶(濃姫)を嫁がせて和睦している。晩年は息子の義龍へ家督を譲ったが、仲違いの末、1556年の長良川の戦いで討ち死にした。63歳だった。

### 親子二代で成し遂げた美濃の国盗り。

斎藤道三とその父による美濃の国盗りは、油売りの行商から始まった。道三の父長井新左衛門尉は、「漏斗を使わずに、油を一文銭の穴に通します。油がこぼれたらお代はいただきません」というパフォーマンスで有名な行商人だった。ある日、武士から「その努力を武芸に注げばいいのに」と言われ、一念発起して武士の道へ。武芸を積んで、美濃守護土岐氏小守護代の長井家の家臣になったという。その跡を継いだ道三は、計略を駆使して美濃国の支配に成功した。

### 常在寺



道三と父長井新左衛門尉が美濃国を制する拠点とした寺。道三・義龍の像や国の重要文化財である掛け軸のレプリカを見学できる。

## 明智光秀

Akechi Mitsuhide | 1528?-1582

前半生に謎が多い明智光秀。元々は足利義昭の家臣だったが、織田信長が足利義昭を立てて上洛した頃から織田家に仕え始めたという。そこからの活躍はめざましく、朝倉攻めでは、浅井長政の裏切りを秀吉と共に乗り切ったほか、比叡山焼き討ちの実行部隊として活躍して、異例のスピード出世を遂げた。故実、典礼に通じた教養豊かな武将で、將軍義昭や寺社・公家との外交面でも活躍した。1582年、本能寺で信長を襲撃したが、その数日後、中国攻めから戻った秀吉軍にあえなく敗走。道半ばで土民に殺された。



### 光秀と熙子の美しい夫婦愛。

結婚前に痘瘡にかかり顔に痘痕が残ってしまった妻木熙子。しかし光秀はそれを気にもとめず、熙子を妻に迎えて仲良く暮らしていた。ある日、光秀が金銭を理由に連歌会の主催を断ろうとした時、熙子は「私が何とかします」と言って、参加者を大いにもてなしたという。会が終わり、頭巾をとった熙子を見て光秀は驚いた。彼女の美しい黒髪がすっぱりと切られていたからだ。熙子に心から感謝した光秀は、その後、熙子生存中は側室を持たなかったという。

### 明智城跡



標高175mの高台に築かれた歴史ある城だったが、1556年に斎藤義龍の襲撃により落城。明智光秀生誕の地のひとつとされる。

## 金森長近

Kanamori Nagachika | 1524-1608

織田信長に仕え、桶狭間の戦いや美濃攻略などで活躍し、赤母衣衆に数えられた金森長近。長篠・設楽原の戦いで鷹ヶ巣山砦を落としたほか、越前の一向一揆の平定や甲州征討で飛騨口の大將を務めるなど、信長の天下統一を力強く支えた。信長亡き後、秀吉の下で数々の手柄を立てて飛騨一国を手にした長近は、天神山に高山城を築城したが、関ヶ原の戦いで上有知ほか2万3000石を与えられてからは、養嗣子の可重に高山城を譲り渡し、自身は小倉山城に隠居した。金森氏は高山に107年間、6代にわたって繁栄した。



飛騨高山まちの博物館所蔵

### 蛤石(はまぐりいし)の奇妙な伝説。

かつて飛騨に蛤石と呼ばれる雌雄2体の奇石があった。蛤石は、夜ふけに白気やうなり声を発して人々に恐れられた。しばらくしてこの地に高山城を築いた金森長近が噂を聞きつけ、人夫に城まで運ばせるところ、その道中で石が重くなり終いには動かせなくなったという。さらにブーンブーンとうなり声をあげたため、長近は元の場所に戻すよう命じたとか。なんとも不思議な蛤石の1体は、古川城跡に現存している。

### 高山陣屋跡



金森長近の下屋敷跡であり、江戸時代に郡代らが治政を行った陣屋跡。陣屋前の広場で開催される朝市には、多くの店や人が賑わう。

## 古田織部

Furuta Oribe | 1544-1615

美濃の国衆・古田重定の子として岐阜県本巣に生まれた。武士でありながら茶の湯や連歌に秀でており、信長の死後は太閤豊臣秀吉の御伽衆となる。天下の茶人千利休に師事し、彼亡き後は後継者として秀吉の茶頭役になった。利休の静的な茶とは異なり、武家好み的大胆かつ自由な織部の流派は「織部好」と呼ばれ、爆発的な流行をみせたという。特に有名な織部焼は「破調の美」と評され、常識に囚われず、割れ、ゆがみ、ひずみなどに美しさを見出している。徳川家の指南役も務めたが、豊臣方との内通疑惑で切腹した。



大阪城天守閣所蔵

### 茶杓に適した竹を求めて。

徳川家康と豊臣家との最終戦争「大坂夏の陣」の最中に、弟子の佐竹義宣を見舞った織部。その際、茶杓に適した竹を探すのに夢中になり、合戦中にも関わらず危険な竹林へ入ってしまったという。案の定敵に狙撃されるも幸い弾は外れ、「やはりこれからは、どこへ行くにも兜が必要らしい」と一言呟いたとか。夢中になると他のことを忘れてしまう織部の人柄がよくわかるエピソードである。

### セラミックパークMINO



織部十作に代表されるように、奥の深い美濃焼を、体験・購入できるスポット。焼物好きもそうでない人も楽しめる施設となっている。



# 関ヶ原1600

いざ、大義と野望が激突した天下分け目の決戦地へ。

…✕…

戦国時代の節目となった天下分け目の戦いの地「関ヶ原」。そこには大義と野望、そして数多くの葛藤が渦巻くドラマがありました。全国の武将がその命と誇りをかけた戦いを紐解くカギがここにあります。



## 関ヶ原の戦いの全貌

豊臣秀吉亡き後、天下統一を目論む徳川家康とそれを阻む石田三成らが対立。そして慶長5年9月15日(1600年10月21日)に火蓋を切った関ヶ原の戦いは、全国の大名を巻き込み、総勢15万人以上が参加する戦国最大級の合戦となった。その舞台は関ヶ原だけにとどまらず、前哨戦は全国各地で発生したほか、岐阜城や苗木城、大垣城も戦火に包まれた。開戦からしばらく一進一退の膠着状態が続いたが、小早川秀秋が東軍に付いたことが決め手のひとつとなり、わずか1日で決着を迎え、東軍が勝利した。

### 関ヶ原合戦布陣図

慶長5年(1600年)9月15日午前8時頃の布陣図

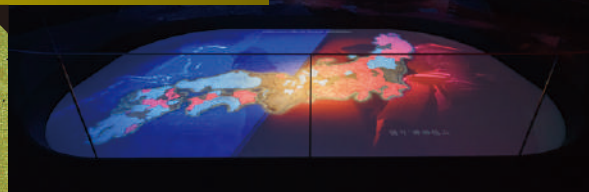


## 岐阜関ヶ原古戦場記念館 SEKIGAHARA MEMORIAL



岐阜関ヶ原古戦場記念館は、家康最後の陣地跡に隣接して建てられた施設。映像や史料展示、体験を通して、天下分け目の戦いを隅から隅まで知り尽くせる関ヶ原の新名所です。

### グラウンド・ビジョン



全国の大名を巻き込んだ合戦の全貌を床面スクリーンで俯瞰できます。東西陣営がどのような戦略で戦ったのかが一目瞭然です。

### シアター



縦4.5m、横13mの大型オーバル(曲面)スクリーンでは、関ヶ原の戦いのリアルかつ大迫力な映像を見ることができます。

### 展示室



関ヶ原の地を語る貴重な史料を展示しています。武将の肖像画や古文書、武具などを見学して、関ヶ原の戦いへの理解を深めることができます。

### 展望室



地上28m、360°全面ガラス張りの展望室からは、関ヶ原古戦場を一望できます。陣跡を見渡しながら、当時の戦場に思いを馳せるのも一興です。

岐阜関ヶ原古戦場記念館 INFORMATION  
 [開館時間] 9:30~17:00(入館は16:30まで) [休館日] 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/29~1/3)  
 [アクセス] JR関ヶ原駅から徒歩約10分、関ヶ原ICから約5分 [問い合わせ] 0584-47-6070  
 [入場料] 一般 500円 高校・大学生 300円 中学生以下 無料 団体(20名以上): 一般 400円、高校・大学生 240円

新型コロナウイルス感染症対策のため、入館には事前予約が必要です。 予約方法等は公式HPへ  
 岐阜関ヶ原古戦場記念館 検索

もっともっと詳しく散策したいときは。  
**せきがはら史跡ガイド**  
 関ヶ原町の歴史・史跡を熟知したメンバーで構成されるせきがはら史跡ガイド。希望の時間やコースに合わせて案内プランを立ててくれるので、より深く関ヶ原の歴史に触れることができます。

武将ゆかりの地を歩いて、まだ知らない関ヶ原に出会おう!  
**関ヶ原史跡巡りツアー**  
 詳しくはこちらへ





# 城物語

それは豪華絢爛な城か、それとも難攻不落の要塞か。

…▲…

歴史の遺産であり、日本美の象徴であり、堅牢な要塞である城。  
ここでは、城の豪華絢爛な側面だけではなく、  
難攻不落の要塞として散りばめられた数々の工夫に注目します。

## 岐阜城（稲葉山城） 天下統一の始まりを告げた地。

金華山の山頂にそびえる岐阜城は、その標高と眺めから難攻不落の城として名高い。事実、織田家は斎藤道三が守る岐阜城の攻略に苦戦したという。後に信長が岐阜城を落とし、天下統一の拠点として整備した。軍事拠点としてはもちろん、大名や文化人をもてなす外交拠点でもあり、金箔瓦を使った建物や滝を備えた池泉庭園がある山麓の館は、地上の楽園と評されたという。ちなみに「石垣に瓦葺屋根、高層の天守」という城のイメージは信長が作ったと言われ、それまでは土を盛り、堀をめぐらせた城が一般的だったとか。山頂にそびえる豪華な城は、戦国大名としての勢いを存分に示したと考えられる。



**難攻不落** **天然の要塞**  
全国有数の標高に位置する岐阜城。まさに「美濃を制するものは天下を制す」を体現していたと言えよう。その鉄壁の秘密は、地形と眺めにある。崖の上にあるため守りやすく、さらに敵の動きを見て先手を打てたのである。絶好のロケーションに優れた軍略と豊富な兵力が合わさって難攻不落の城ができたのだらう。

## 大垣城 石田三成が本拠地を構えた要塞。

美濃と近江を結ぶ要衝のため、斎藤道三と織田信秀が領有を争った大垣。そこにそびえるのが堅城で知られる大垣城で、江戸時代には4層の天守と10ヶ所以上の巨大な櫓を持つ広大な城郭を誇ったという。関ヶ原の戦いでは、石田三成が最初の本拠地を構え、本戦で西軍が敗れてからも激しい攻防戦が繰り広げられた。攻めあぐねた家康の説得により、決戦から1週間後ようやく開城したという。そんな乱戦の中、たらい舟で城を脱出した西軍武将の娘おあむの日記をもとにした「おあむ物語」では、壮絶な籠城戦の様子が垣間見える。また春と秋には、たらい舟で川下りを体験できる。



**難攻不落** **鉄壁の七口之門**  
かつての広大な大垣城には「七口之門」と呼ばれる7つの堅固な城門があった。残念ながら現存するものはないが、市内各所では「七口之門」の跡を見ることができる。すべての門跡を歩いて訪れてみると、かつての大垣城の大きさが実感できるだろう。

## これだけじゃない！ 岐阜の名城コレクション

詳しくは特設サイトへ



岩村城跡



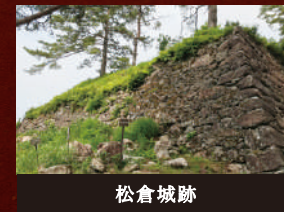
美濃金山城跡



松尾山城跡



大桑城跡



松倉城跡



明知城跡

## 郡上八幡城

日本最古の模擬木造天守。

吉田川と小駄良川の合流地点にある八幡山にそびえる郡上八幡城。その始まりは、遠藤盛数によって砦が築かれた戦国時代末期まで遡る。しかし現存する縄張りの多くは、遠藤氏に代わって、稲葉貞通が城主となった際に完成させたもの。一時は城を追われた遠藤氏だが、関ヶ原の戦い後には城主に返り咲き、以降5代にわたって郡上八幡城を統治した。しかし1871年の廃藩置県で廃城となり、石垣以外のすべてが取り壊されることに。現在の天守は、1933年に焼失前の大垣城を参考にして再建されたものである。付近には落葉広葉樹が多く、11月には城と一緒に美しい紅葉が楽しめる。



**難攻不落** **里の小町 およしの人柱伝説**  
山頂に位置する城は鉄壁の強さを誇る分、築城に困難を極める。郡上八幡城も例に漏れず、石垣の崩壊に悩まされていた。そこで里の少女およしが、人柱として生き埋めにされることに。伝承によれば、城の石垣に向かって「およし、およし」と言って手を叩くと、彼女の泣き声が聞こえるとか…。

## 苗木城跡

巨岩を飲みこむ、山城の石垣。

美濃と信濃の国境にある標高約432mの岩山に築かれたのが苗木城である。天守跡にある展望台からは、恵那山や木曾川などが一望できるが、ここでは石垣に注目したい。苗木城の石垣が巨岩を飲み込んでいようにも見えるのは、敷地面積をより広く確保するために、石垣と岩石をより密着させて作られたからだという。一方で石の大きさが統一された箇所もある。それは苗木城が100年以上かけて築城されたため、その長い年月の中で石垣を積む技術が進化したからだと考えられている。このような姿から、「岐阜のマチュピチュ」と呼ばれ多くの観光客が訪れている。



**難攻不落** **大矢倉跡**  
城内には、攻め入る敵を迎え撃つための大矢倉と呼ばれる建物の跡がある。外観は2階に見えるが、実は3階建て。2・3階には鉄砲狭間が設けられている。一説によると、城内最大の矢倉にも関わらず完成が寛永年間と遅かったため、幕府を憚って鳩を飼うための「御鳩小屋」だと称したという。

## 江馬氏下館跡／高原諏訪城跡

北飛騨を治めた江馬氏の館と庭園。

江馬氏下館跡は、戦国時代に北飛騨を統治していた江馬氏の居館。「水田にある5つの大きな石は江馬の殿様の庭石」という伝承の通り、発掘調査で遺構が発見され、館や庭園が復元された。国の名勝であり、当時の景色を眺めながら会食体験ができる。また下館後ろの山稜上には高原諏訪城跡があり、広い曲輪や土塁に加えて、敵の侵入を防ぐ堅堀や堀切が残っている。土造りの山城であり、同じ飛騨にある松倉城とは対照的な造りとなっている。そんな北飛騨で栄えた江馬氏だったが、同じく飛騨の有力武将だった姉小路氏に敗れて衰退し、高原諏訪城も廃城となったという。



画像提供：飛騨市教育委員会

**難攻不落** **由緒正しき中世の武家屋敷**  
難攻不落…ではないが、江馬氏下館には室町時代の庭園とそれを眺める建物(会所)があり、当時の武士の暮らしを垣間見ることができる。他にも格式の高い四脚門や、屋敷を囲む土塀、当時の威光を示す逆三角形型の薬研堀など、様々な遺構が再現されている。



# 歴史探訪inぎふ

歩けば歩くほど、知らない景色に出会える。

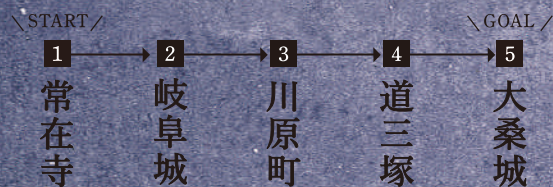


岐阜の各地に眠る歴史を知れば知るほど、その土地や武将に対する見方が変わってゆく。  
そんな発見にあふれた戦国時代の足跡をたどる旅を、  
5つのコースに凝縮して紹介します。

## course 1 齋藤道三 美濃の国盗り

下剋上の軌跡をたどる旅。

齋藤家の菩提寺であり国盗りの拠点となった常在寺や難攻不落の岐阜城を通過して、道三と争った土岐氏の拠点である大桑城へ向かうコース。国盗りに奔走し、壮大な下剋上を成し遂げた齋藤道三のルーツやゆかりの地を辿ってみよう。



### Pick up

#### 川原町

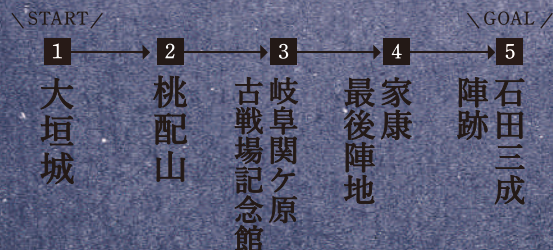
史跡巡りで疲れたら、日本家屋がずらりと並ぶ川原町へ。伝統的な雰囲気の中を着物で散策したり懐かしい和菓子を味わったりできます。



## course 2 天下分け目の大決戦 関ヶ原の戦い

総大将が眺めた景色を、その目で確かめよう。

石田三成が本拠地を構えた大垣城から、本戦が行われた東西両軍の陣地までを巡るコース。合戦中も何度か動いた陣跡を辿りながら、家康と三成が何を見て、何を思ったのかなど、ふたりに思いを馳せながら関ヶ原を巡るのも一興です。



### Pick up

#### 岐阜関ヶ原古戦場記念館

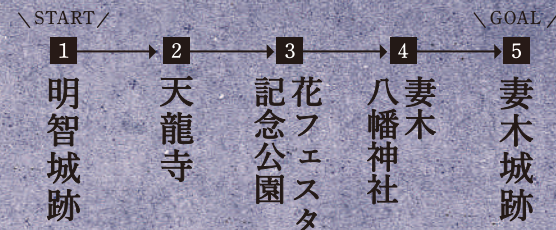
関ヶ原の戦いを体感しながら学べる新スポット。併設されたショップでは、様々な戦国グッズを買うことができます。



## course 3 明智光秀ゆかりの地めぐり

知られざる明智光秀の前半生がここに。

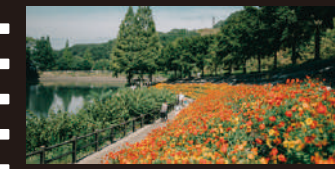
光秀生誕の地という伝承が残る明智城跡や明智一族が祀られている天龍寺、流鏝馬神事が行われる妻木八幡神社などを回ります。光秀ゆかりの地を巡って、未だに謎が多い光秀の前半生のヒントを探してみませんか。



### Pick up

#### 花フェスタ記念公園

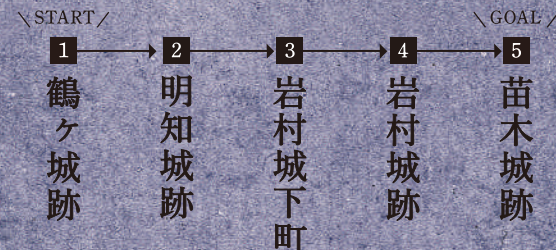
石や土でできた史跡を見た後は、色とりどりの花を見ませんか。バラをはじめとした四季折々の花があなたをお出迎えします。



## course 4 織田家と武田家の城取り合戦

今なお、合戦の跡が色濃く残る地へ。

女城主が治めた城として有名な岩村城跡や石垣が特長的な苗木城跡、周辺では珍しい畝状堅堀群を持つ明知城跡など織田家と武田家の激しい戦いを思い起こさせる防御施設や城の遺構を見学できるコースです。



### Pick up

#### 岩村城下町

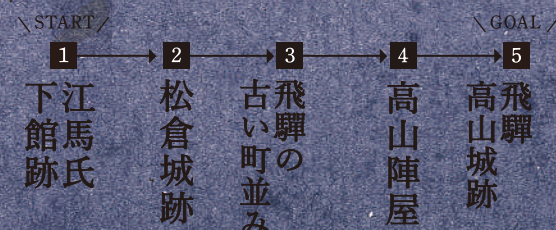
全長1.3kmにもなる城下町では、歴史ある旧家や風情あるなまこ壁が見学できるほか、多彩なオリジナルスイーツも楽しめます。



## course 5 飛驒の戦国めぐり～金森長近の飛驒攻略～

歴史も、観光も、山登りも。

北飛驒を統治した江馬氏の武家屋敷や、山頂に位置する金森長近ゆかりの城跡を巡るコース。標高のある山々を登ったり、江戸時代の役所である高山陣屋や飛驒の古い町並みを散策すれば心癒されること間違いなしです。



### Pick up

#### 飛驒の古い町並み

海外からの訪問も多い古い町並みは、「小京都」と言われるほどの人気観光地。食べ歩きながらの散策が醍醐味です。





名城やゆかりの地を巡りながら、  
戦国時代の軌跡をたどろう。

# ぎふ城郭マップ



## アイコンの見方

日本100名城をはじめとした各城の特長をアイコンで示しています。



城物語



御城印



日本100名城



続日本100名城



明智光秀ゆかりの地



関ヶ原ゆかりの地

美濃		飛驒	
1 岐阜城	岐阜市	36 御嵩城	御嵩町
2 加納城		37 小原城	御嵩町
3 黒野城		38 苗木城	中津川市
4 長山城		39 阿寺城	中津川市
5 徳山氏更木陣屋	各務原市	40 阿木城	中津川市
6 大桑城	山県市	41 片岡寺跡	
7 山口城	本巣市	42 鶴ヶ城	瑞浪市
8 大垣城		43 小里城	瑞浪市
9 墨俣一夜城		44 旗本馬場氏陣屋	
10 お茶屋屋敷	大垣市	45 仲深山砦	恵那市
11 曾根城		46 土岐明智城	恵那市
12 西高木家陣屋	大垣市上石津町	47 前田砦・城山砦	恵那市
13 菩提山城・竹中氏陣屋	垂井町	48 岩村城	恵那市
14 垂井城		49 信の城・飯羽間城	恵那市
15 関ヶ原合戦陣跡群	垂井町 大垣市上石津町	50 明知城	土岐市
16 松尾山城	関ヶ原町	51 妻木城	土岐市
17 揖斐城	揖斐川町	52 土岐高山城	土岐市
18 小島城		飛驒	
19 本郷城	池田町	53 高山陣屋	高山市
20 大洞城	関市	54 松倉城	高山市
21 小野城	関市、美濃市	55 高山城	高山市
22 鉦尾山城	美濃市	56 梨打城	高山市
23 小倉山城		57 三仏寺城	
24 明智城		58 尾崎城	
25 久々利城		59 広瀬城	
26 大森城	可児市	60 高原諏訪城・江馬氏下館	
27 今城		61 小鷹利城	
28 美濃金山城		62 向小島城	飛驒市
29 郡上八幡城	郡上市	63 小島城	飛驒市
30 篠脇城・東氏館		64 増島城	飛驒市
31 猿啄城	坂祝町	65 古川城	
32 加治田城	富加町	66 東町城	
33 和知城	八百津町	67 傘松城	
34 顔戸城	御嵩町	68 桜洞城	下呂市
35 上恵土城		69 萩原諏訪城	下呂市

## 御城印コラム

お城を訪れた証明であり、記念品でもある御城印。城名と家紋が堂々と書かれた御城印は、きっと忘れられない思い出になります。あなたも御城印を集めながら、岐阜の多彩な城・城跡を巡ってみてはいかがでしょうか。



※岐阜県内にある約800カ所の中世城館跡のうち、主な69カ所を掲載しています。＜参考文献＞「岐阜県中世城館跡総合調査報告書」「東海の名城を歩く 岐阜編」 ※御城印の情報は、令和2年9月末時点ものです。





監修

## 小和田哲男先生

1944年生まれ。日本中世史の研究者であり、特に戦国時代史研究の第一人者として知られる。静岡大学名誉教授。岐阜関ヶ原古戦場記念館館長。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。「麒麟がくる」や「歴史秘話ヒストリア」など数多くの時代考証や解説を担当している。



戦国時代を語るとき、現在の岐阜県を抜きにして語ることはできない。戦国武将の代表といってもよい斎藤道三・織田信長・明智光秀をはじめ、超有名武将が岐阜県を舞台に大活躍をしている。そして、きわめつけは、「天下分け目の戦い」といわれる関ヶ原の戦いも岐阜県の関ヶ原で繰り広げられた。

しかも、県下には、そうした戦国武将ゆかりの場所がいくつも残っているのである。山城や古戦場だけでなく、関係する寺や神社も少なくない。武将たちが住んだ所、歩いた道、立ちどまった同じ場所に立つことができ、同じ風景をみることができる。歴史の現場に足を運ぶ楽しさが体感できる場所が岐阜県にはいっぱいある。戦国武将のことをもっと知る旅に出かけてみませんか。

